

■発行 日本会議大阪事務局 大阪市中央区久太郎町4丁目渡辺6号 大阪府神社庁内
TEL 06-6245-5741 FAX 06-6243-1682
E-mail nippon@jp.bigplanet.com
http://nipponkaigi.jp.org/ ※ホームページのアドレスを変更しました

■2/22~23 沖縄・なにわの塔慰霊祭 報告

去る2月22日(水)から23日(木)にかけて、神道政治連盟大阪府本部主催、日本会議大阪共催の「沖縄・なにわの塔慰霊祭」が行われた。参加者は総勢33名。昨年は丁度、3月の東日本大震災直後の沖縄行きであったが、それに引き続いて2回目の開催となった。幸いにもよいお天気に恵まれた。



なにわの塔前で記念撮影

2月22日 一波上宮参拝、なにわの塔慰霊祭

那覇空港に到着すると、最初に波上宮参拝と古来からの祈りの聖地である崖橋にある拝所に心から手を合わせた。拝所からは慶良間諸島をしっかりと捉えることができ、集団自決された島民の人々と最期まで戦い続けた軍人・軍属の人々へ思いを馳せた。

その後、糸満市の平和祈念公園内のなにわの塔へ。大阪は各県の慰霊塔が建っている敷地の中でひととき広く、慰霊祭を斎行するには絶好の場所である。祭壇には大阪から持ち寄った供物を献上、斎主を務めた山根・枚岡神社禰宜の心を込めた祭詞が響き、糸数・住吉神社宮司による御神楽の時にはそれまで晴れていた天気が微かに霧雨のように降ってきた。

昨年、今年と慰霊祭に参列し、慰霊とは繰り返し続けることであること、塔の前でここに鎮まれる御霊に触れて慰めるとともに、その志を継承することであることを痛感した。

終了後、那覇市内の「金城」という居酒屋で懇親会を行ったが、ライブなどもあり、たっぷりと沖縄情緒に浸ることができた。

2月23日 普天間宮参拝、海上自衛隊那覇基地見学、旧海軍司令部跡見学、護国神社自由参拝

翌日は朝方まで大雨警報がかかわらず、普天間宮に到着した時には嘘のような爽やかな天気となった。普天間宮は赤瓦で、もう隣は普天間飛行場であるが、同飛行場は市内の中央の丘に位置し、森が遮断されていることもあり、その動きは市民からは目にはできない。この神社は柱の中をくり抜いて鉄柱が挿入されていて、頑丈そのものの構えだ。参拝後、拝殿の後ろに位置する洞窟は自然に発生した鍾乳洞で、その奥まった所が拝所となっていて、ここは昔からの人々の信仰の地である。洞窟内ははじめじめとしているが、何か霊気がある感じがした。

続いて海上自衛隊那覇基地(第5航空群)を訪問。恥ずかしながら那覇空港と隣接していることを知った。第5航空群はまさに南の最前線で東シナ海を中心とする南方地域を防衛する拠点である。広報、幹部の方々との昼食会、基地トップの高橋司令の講話と続いた。司令は関西防衛を支える会会長、大阪府神社総代会の副会長であった高橋季義のご子息である。その後、整備補給隊の位置する場所へ移動、対潜哨戒機 P-3C が格納してある倉庫へ案内された。整備庫も4機程、同時に整備できる位であろうか。テレビや新聞の写真とは異なり、その威容に驚いた。外にも同機4機があった。10数機が24時間、常時、ローテーションを組んでいる。我々もまさに稼働中で、一時、休止している同機の内部見学だけでなく、コックピットの運転座席も座らせてもらい、これが最新鋭の哨戒機であることを体感した。夥しいボタンの数が並んでいて、これを縦横に操

作しているのかと思うと、本当にすごいと思った。

そして那覇市と豊見城市の境に位置する旧海軍司令部跡へ。あの大田中将の最期の電文はここから発せられた。現在は壕の200メートル程を進むことができるが、全長が約100メートルあり、全て兵士が掘ったものであり、激戦が予想される中で気の遠くなる作業を終え、そして最期まで兵士が立てこもった場所である。土を掘った兵士、作戦を練った兵士、負傷して、休憩した兵士と、戦われた人々の息使いが狭い坑道と部屋を巡る中で伝わって来る。

続いて沖縄県護国神社で自由参拝した後、那覇空港から帰路に着いた。

沖縄には英霊の方々の思いが一杯、鎮まっており、その英霊の方々に心を寄せていくこと、そして今、御霊の思いが詰まっている沖縄へ侵略を企てる中国に対して、片時の暇もなく守り続けている人々の努力を目の当たりすることができた旅となった。併せて守るべき対象の沖縄との距離感がグッと縮まり、心から沖縄を守るとは沖縄と本土との固い絆をわが身に宿すことが大切なことを実感したのだった。

■ 3 / 4 「東日本大震災復興祈念の集い」報告



ポツンと残された松ー荒浜近辺

去る3月4日（日）の朝、仙台市民会館で開催される「東日本大震災復興祈念の集い」に参加するために、役員とともに飛行機で仙台空港へ向かった。「集い」開会の前の時間で、この機会に是非、被災地の様子がどんな状態であるのかを実際に目にしておきたいこともあり帯同した。

レンタカーで被災地を巡った。すぐに空港から海岸側には広大な一面、雪で覆われ、本当に何もなかった。お墓の一部が倒れ、もともとあったお寺はない。墓石が半分に割れているものもあった。その隣の神社も本殿だけがポツンとあるだけだ。この神社は津波で拝殿が半壊、昨夏に拝殿を取り壊したという。流されなかったこと自体が驚きだ。本殿に犠牲となられた方々へのご冥福と一日も早い復興をしばし、お祈りをした。ほとんど瓦礫がなくなっているが、部分的に鉄材の瓦礫がうず高く集積されている。

程なく浜の方でも車を止めた。防風林の松林が横殴りに倒されたままになっている。既に色が茶色に変色している松もある。これだけになってしまったのは、多くの松が津波とともに内陸に家屋を削る凶器となったことは容易に察せられる。

次に県道10号線を北上し、このあたりでは最も被害が大きかった荒浜のヘリポート近辺を通過。震災前のここは住宅地であったが、ほとんどの家は基礎の土台があるだけで、あとは何もない。津波がなければ、これから家を新築と勘違いする程だ。ほとんど波が根こそぎ、のみ込んでしまったことを物語っていた。県道沿いに漁船が点在し、こんなところまで打ち上げられ、まさかこんなところに何故あるのか、疑問に思うほど当時の津波の圧力が大きかったことがわかる。完全にこの一体は死んでしまった感を強くした。かろうじて残った家も、一階部分が空洞となっていて、カーテンだけが寒風に揺れながら吹きさらしとなっていて、見るも無残な状態だ。

住宅地帯から田圃が広がっている場所となると、やはり雪で覆われていて、田圃なのかかわからない状態となっているが、ヘドロを含んだ海水が入り込み、どす黒くなっており、例年、3月中旬ごろから小麦の作付けが行われるとのことであったが、見る影もない。しばらくは塩害のため、この田圃を使うことは無理だろう。

仙台市内に入るまで、多くの人々の生命と建物を一のみにし、押し流してしまった自然の脅威は、「猛威」と形容するしかない、人智を超えたものである。しかし、通過する車両や自転車に乗っている人々の表情は既に何もなかったかのようで、この1年の時間の経過を感じたのも事実であった。

その後、仙台市民会館で開催された「復興祈念の集い」に参加。1200名の参加者で会場は満杯。司会進行は女優の東ちづる氏。参加者全員による鎮魂の祈り、そして震災直後の天皇陛下のお言葉と御製を復興に当たられた人々の表情を映し出すビデオを辿りながら拝聴したが、復興祈念の願いが国民を代表して語り尽くされていることを十分に受け取ることができ、場内は決してあの震災を忘れてはならないという誓いをする厳粛な雰囲気になっていった。

復興へ願いを参加者と一体となって確認することしか、前進はないこと、そうして政治はこの声に応えていかねばならないという思いをさらに強くして会場を後にした。

《本会・関係団体行事のご案内》

■日本会議大阪・神道政治連盟大阪府本部地方議員懇談会 平成24年度合同総会

※総会は原則的に地方議員の先生方の参加となります。

- ・日時 3月31日(土) 総会 午後2時～2時半
記念講演 2時半～3時半、懇親会 3時半～4時半
- ・会場 大阪府神社庁会館5階 地下鉄御堂筋・中央線「本町」駅下車、⑮番から徒歩1分
- ・講演
演題 「女性宮家創設・人権侵害救済法案・領土領海防衛への対応」
講師 八木 秀次 先生(高崎経済大学教授・日本教育再生機構理事長)
- ・参加費 5,000円
- ・お問合せ 日本会議大阪事務局 TEL06-6245-5741(担当 丸山)

■第24回同期の桜を歌う会

- ・日時 4月7日(土) 受付 午後12時半、本殿正式参拝1時、軍歌奉唱2時～4時半
- ・会場 大阪護國神社境内 地下鉄・四ツ橋線「住之江公園」下車すぐ
- ・参加費 お1人様 1,000円(飲料等を含む)
- ・出演者 梅谷 裕子(ソプラノ)、梅谷 忠洋(フルート)、立津 宏嗣(ピアノ)
※本会も参加団体として、11時半より、高砂の間で映画「天翔ける青春」を上映致します。
- ・主催 同期の桜を歌う会実行委員会 TEL06-6681-3638

■第7回「昭和の日」記念 講演・映画・音楽の集い

- ・日時 4月29日(祝・日) 開場 正午・開演 午後1時・終了 4時
- ・会場 大阪府神社庁会館5階
- ・講演 大原 康男 先生(國学院大学教授)
演題 「『昭和の日』の5周年を迎えて」
- ・映画 「希望と元気をお与えになる昭和天皇」
- ・音楽 大峰 かず子 氏(日本のこころを歌う会)

※入場無料

- ・主催 「昭和の日」記念行事実行委員会 TEL06-4250-1515

■第14回憲法シンポジウム

- ・日時 5月3日(木) 午後2時～4時半
- ・会場 大阪府神社庁会館5階
- ・演題 「島嶼防衛－われらいかにして守るのか」(仮題)
講師 北村 淳 先生(戦争&平和社会学者)

[略歴] 東京生まれ。東京学芸大学卒業後、警視庁公安部等に勤務。ブリティッシュ・コロンビア大学で Ph.D. (政治社会学博士) 取得。現在、軍事コンサルタント (米シンクタンク)、シアトル在住。著書に「アメリカ海兵隊のドクトリン」(芙蓉書房)「米軍の見た自衛隊の実力」(宝島社)「海の生命線」(島嶼防衛) (明成社)。

- ・参加費 1,000円 (正会員以上は無料)
- ・主催 日本会議大阪 TEL 06-6245-5741 (担当 丸山)
- ・共催 関西民間憲法臨調

■沖縄県祖国復帰 40 周年記念大会ツアー

※詳細な日程は同封した案内チラシをご参照下さい。

- ・日時 5月11日(金)～13日(日)
- ・場所 ・**沖縄県祖国復帰 40 周年記念大会** [宜野湾市民会館]
・**沖縄戦全戦没者顕彰祭** [平和祈念公園内 平和祈念堂]
- ・宿泊先 沖縄ポートホテル TEL 098-868-1118
- ・参加費 57,000円 (飛行機・宿泊代 [ツイン]、懇親会費 込) ※シングルの場合は追加料金として1万円要
- ・募集人員 30名 (先着順)
- ・申込方法 同封の案内チラシにある申込書に必要事項をご記入の上、事務局へ FAX で送信願います。FAX 06-6243-1682
- ・主催 日本会議大阪 事務局担当 丸山 TEL 06-6245-5741

■日本会議大阪 平成 24 年度総会

- ・日時 6月9日(土) 午後2時～4時半
- ・会場 大阪府神社庁会館5階
- ・内容 第1部 総会
第2部 講演 講師交渉中
- ・参加費 1,000円 (正会員以上の方は無料です)
- ・主催 日本会議大阪 TEL 06-6245-5741 (担当 丸山)